

幼 児 の 教 育

昭 和 二 十 年 一 月

健 康

——保姆諸君と語る—— (二)

倉 橋 惣 三

皆さんのために、何が一番ほしいものかといへば、それはいふまでもなく健康である。世の中でこんな働きをするにも、それに耐える健康がなくては出来ないが、相手が幼い子ぎもである場合、その人の健康は一層強いものでなければならぬ。單に耐えられるさいつた程度のものでなく、働いてもく疲れないさいつた積極的の健康でなくてはなるまい。

幼稚園さいふものを外から想像してゐる人は、保姆さいふものゝ働きを、世にもらくなこに考へたりする。小さい子ぎも達を遊んでゐる呑氣至極のこに思つたりする。しかし、あの元氣潑瀾たる幼児さいつしよに、否、その先きに立つて馳けもし飛びもして休む間もない働きは容易のこでない。幼稚園の實際を知つてゐる人達がよくいふこであるが、小學校の先生には休憩時間があり、あき時間さへあるが幼稚園の先生にはそれが無い。全然ない。これでは身體がつぶくまい。實際その通りであつて、充分健康の人でなくてはその勞に耐えてゆけないのである。

しかも、身體の疲れが多いばかりではない。たゞそれだけでいゝならまだらくなこゝみである。幼稚園の先生は、あの小さい子達を相手にして、それは／＼無限の心疲れをする。ちよつこだつて目を離せない。次から次へハラ／＼するやうなこゝみが起る。うつかりしてゐられないのである。相手にしてゐるだけならまだいゝ。あの小さい人達の相手になつてゆく氣疲れは、経験したこゝみのない人には察しもつかない程である。馳けたり飛んだりしてゐる時ばかりではない。氣樂くさうに立つてゐる時でも、心は小やみなく働いて居り疲らされてゐる。

そればかりではない。その心身の大きい疲れの中で、聊かでも疲れたやうな顔をしてはならぬのである。肩一つしかめてはならぬのである。それには、疲れないこゝみ以上に、しじゆう健康があり餘つてゐなければならぬ。いくら馳け廻つても、子ぎも達にせつつかれても、いつでもおつりの出る健康でなければならぬ。そうでないこゝみ、あなたがつらい以上に、子ぎも達がつまらない。

「先生お早う」。張りきつた一ぱいの元氣の聲。

「そうねえ、早くて寒いのねえ」。トーカーでないから、聲の弱々しさ、いきの抜け加減は出てゐないが、こんな受け答へをされては、子ぎもはがつかりして仕舞ふ。大げさにいへば、その一日の人生がすつかりつまらなくされて仕舞ふ。

但し、ほんこゝみは、子ぎもはそんな位ものこゝみで弱らされはしないが、「だめだ。あんな氣力のない先生なんか。相手にしたつてつまらないや」。こゝいつたこゝみにならないこゝみも限らない。先生は大切にいたわられてゐるのだと思つても、つまりは子ぎもから除け者にされてゐるのである。——幼稚園は子ぎもの世界である。その子ぎも達からポイコットされたんでは、幼稚園保母はこゝへゆく。

こんな譯でこゝみふ譯でもなく、保母諸君には、健康は大事なこゝみである。少々下品な言葉使ひで相濟まんやうでもあるが、もゝで、こゝみふのに意味がある。もゝで、こゝみは「へる」ものでもあるが「ふえる」ものでもあり、そして、幼稚園こゝみふこゝ

ろは、そのも^もで^でをふやす筈の^こころだからである。忙しい^いつたつて、心づかひが多いから^いつたつて、日々接してゐるものは、あの元氣な幼児達である。生命のゾーンが一ぱいに漲り、歡喜のエマナチオンが絶えず發生してゐる、天下第一の健康地帯である。そこには變に氣をくさらせ、妙に心をもつれさせるやうな、健康上何より有害な毒素は一つもない。そこで、普通の健康の^もで^さへもつてゐれば、それがぐんぐん増進されてゆくのである。しかし、若しその^もで^の基礎がしつかりしてゐなかつたら、又、^もで^の融通がよくきいてゐなかつたら、さうしたつて喰ひ込まれてゆくのである。幼稚園^のいふ^こころでは、健康をそうつ^ま仕舞ひこんで置いたり、ケチ^くし出し惜しみしたりしてゆける^こころではない。惜し氣なく^{きん}く投資して、ふやすかへらすか、やつてみなければならぬ^こころである。

そこで、此の幼稚園^のいふ^劇しい愛の戦場で活動する人は、豫め先づ健康の^もで^を充分もつてゐる人でなければならぬ^こと共に、たえずその^もで^を貯へてゆく^ここに意を用ゐるなければならぬ。幼児の中では、要るだけのものを、かたつばしから、ふんだんに消費しなくてはならないのであるから、それだけ健康貯蓄の蔭の苦心が必要な譯である。

幼稚園でめざましく働くか働かないか。それはその場になつての氣の入れ方だけでは出来ない。勿論、氣の入れ方も大事で、それさへないのはお話にならないが、問題は働く働かぬではなくして、働けるか働けないかである。そして、それは一つに、健康保全に對する、平生不斷の心がけ如何にある。之れを他の言葉に移していへば、幼稚園での働きの立派な保母は、斯うした人知れぬ苦心に、常にその健康を大切にしてゐる人々だ^いへる。

年も新らしくなりました。愈々益々お身御大切に。あなたの身體ではない。幼児達に與へなければならぬ健康だから。